

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者ケアセンター こぶし園	代表者	滝本一也	法人・ 事業所 の特徴	築き上げてきた暮らしを支える。ご利用者の生活・介護（暮らし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。また複合型施設の特徴を生かし、他事業所とのご利用者の交流や地域の方の協力のもとさまざまなアクティビティを取り入れ活動を行っています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	阿部恵理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の『次回までの改善計画』を具体的に立て実現に向けた取り組みが行われているか毎月のミーティングや昼礼等で評価していく。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ具体的な目標を立てたことで年間を通して実現に向けた取り組みを行うことができた。 ミーティング等での定期的な評価はできなかったため、行えていない項目へ別の方法でアプローチすることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> “事故報告やヒヤリに対しより良いケアを提供できるよう結び付け、対策を提示できるよう心掛けた”とあるが、具体的にはどのような取り組みをしたのか。 共有スペースでの職員の言動について、“職員同士が指摘しあえる関係性を構築する”とあるが具体的な取り組みはどのようなものがあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価の改善計画に取り組んでいるか、進捗状況はどのようになっているかを定期的に評価する。項目ごとに担当を決め確実に実行する。 職員によってサービス評価に対する理解に差があるため、自己評価前に学習会を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 年中行事を中心に季節を感じていただけるような行事を計画実行する。しつらえについては月毎に担当を決め、事業所入り口に季節を感じられる飾り付けを行う。 感染防止の観点に立った食席やフロア内の清掃、環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月季節ごとの行事を行い、季節や行事の雰囲気を感じていただいた。 感染対策として食席を毎日記録し必要時に接触者の確認ができるようにした。清掃については視覚でも確認できるよう図などを用いて提示し統一したやり方で行えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の広報で様子を見させてもらっている。 掃除の仕方は年代や環境によって違うと思うので視覚で分かりやすくしてあるのはいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節感のあるしつらえを行う。事業所入り口を中心に、ご利用者の視覚に入りやすい場所に飾るよう工夫する。 感染防止の観点に立った食席やフロア内の清掃、環境整備を今後も継続する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 満足度調査で“コロナ禍で中に入ったことがない。様子が分かるとう助かる。”との意見があったため、しつらえや創作活動の作品などを写真に撮り2か月に1回程度ご家族や地域（コミュニティーセ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月広報を作成し利用者家族に配布した。当初は2か月に1回程度を予定していたが、毎月作成し配布することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報に掲載されると利用者家族ともに喜ばれる方が多いので、掲載の承諾を得ている方に不公平感がないような掲載方法をするとう良い（広報に載る人が偏らないようにする）。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報を作成し地域に配布する仕組みをつくる（配布先に了解を得た後、担当が毎月広報を持参する、など）。 広報に掲載してもよいと承諾されている方が平均して載ること

	ンター、病院など) に配布する。			ができるようできるだけ配慮する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防を第一に考え、地域行事は車内から見学するなどの方法で参加していく。 ・訪問先で地域の人に会った際は挨拶などの関わりを継続し相談しやすい関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事は今年度も中止が多く参加することはできなかった。 ・訪問先で地域の方々とお会いした際は積極的に挨拶をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はどの地域も中止になっているため難しかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防を第一に考え、その時の感染状況をみながら安全な方法で参加していく。 ・訪問先で地域の方に会った際は挨拶などの関わりを継続し相談しやすい関係を構築する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加することで地域との関わりや運営推進会議の意義など多くのことを学べるため次年度も介護職員の出席を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も運営推進会議は書面開催がほとんどだったが通常開催の際は事業所職員も同席した。有識者の話や意見交換等で非常に有意義な時間を過ごせたとの感想が聞かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在中止になっている地域行事などがコロナ禍終了後に以前のよう再開できるのか、と心配の声があがっている。どうすれば地域の中で暮らしていけるのかDの項目とあわせて考えていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では有識者との意見交換などで多くのことを学べ、コロナ禍での地域の課題に気付ける機会にもなる。次年度も介護職員の出席を継続していく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で防災訓練が行われる場合は小規模職員も参加させてもらえるよう民生委員や町内会長に依頼していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練も縮小か中止となり参加することはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画を確認した。 ・訓練には参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類(地震、水害、火災など)によってどのような動きが必要になるのか想定しながら防災訓練を行う。 ・AED、ライフジャケットの着方など緊急時に慌てずに行えるよう定期的に研修の場を設ける。